PATEK PHILIPPE
GENEVE

報道資料》ページ

パテック フィリップ ジュネーブ
2023年6月

歴史的な成功を収めた《ウォッチアート・グランド・エキシビション（東京2023）》

パテック フィリップの《ウォッチアート・グランド・エキシビション（東京2023）》は、日本の公衆からきわめて温かい歓迎を受けた。2023年6月10日から25日まで開催された、この前例のないイベントを訪れた約60,000人の見学者は、ジュネーブ最後の独立した家族経営の時計マニュファクチュール、パテック フィリップの世界を目の当たりにした。広さ2,500平方メートルを超える展示会場は、見学者をジュネーブに誘い、パテック フィリップの舞台裏を発見する機会を提供した。マニュファクチュール パテック フィリップがこれまでに開催した最大のエキシビションとなったこのイベントには、世界初公開となった2点のテクニカル・タイムピースを含む6点のリミテッド・エディションが発表され、希少なハンドクラフト作品の充実したコレクションも合わせて発表された。パテック フィリップは、次回のウォッチアート・グランド・エキシビションを2025年にミラノにおいて開催する。

ドバイ（2012年）、ミュンヘン（2013年）、ロンドン（2015年）、ニューヨーク（2017年）、シンガポール（2019年）に続き今回、パテック フィリップは世界的なウォッチアート・グランド・エキシビションの第6回開催地として東京を選んだ。希少なハンドクラフト、時計製作におけるすべての技術的卓越性と精緻な仕上がりを高く評価する、鑑識眼の高い愛好家の国、日本は当社ブランドにとって歴史的にきわめて重要な市場である。伝統への敬意とアヴァンギャルドな精神が融合した文化に育まれた日本の顧客は、1839年の創業以来パテック フィリップを導いてきた《革新の伝統》の哲学を理解する完璧な資格に恵まれている。

《ウォッチアート・グランド・エキシビション（東京2023）》の会場としては、過去のエキシビション同様、開催都市を象徴する場所が選ばれた。新宿住友超高層ビルの1階レベルに構築された約3,200 m²の広大なホールである、三角広場がそれである。三角広場は、高さ最大25 mの巨大なガラス張り天井に覆われ、内部に柱はない。パテック フィリップは、この自然光に満ちたスペースに、著名な花時計を含むジュネーブの通りやレマン湖岸を彷彿させる、2,500 m²を超える展示会場を創出した。これはウォッチアート・グランド・エキシビションの中で最大の規模のものとなった。10のテーマ・ルームに分けられた展示は、見学者をパテック フィリップの世界への旅に誘い、ローヌ通りの歴史的本社、プラン・レ・ワット工場、パテック フィリップ・ミュージアムという、当社のジュネーブにおけるランドマークを目の当たりにさせた。それはあたかも1万キロメートル彼方のジュネーブから、これらが東京にやって来たかのようであった。

PATEK PHILIPPE SA GENEVE
Chemin du Pont-du-Centenaire 141 – 1228 Plan-les-Ouates
P.O. Box 2654 – CH – 1211 Geneva 2 – Switzerland
Tel. + 41 22 884 20 20 – Fax + 41 22 884 25 47 – www.patek.com

パテック フィリップ《ウォッチアート・グランド・エキシビション（東京2023）》には、約500点のタイムピースと、幅広い専門知識を示すオブジェが展示された。とりわけ見学者は、象徴的なデザインから最も洗練された機構まで、時計製作のすべての分野をカバーする、マニュファクチュール パテック フィリップの広範な紳士用・婦人用現行コレクションのすべてを鑑賞することができた。マニュファクチュール パテック フィリップの卓越した分野のひとつであるコンプリケーテッド・ウォッチには多くの展示スペースが用意され、今回、グランド・エキシビションとしては初めて、超複雑タイムピースの特設セクションが設けられ、チャイム・ウォッチも《マスター・オブ・サウンド》と名づけられた専用のスペースに展示された。ひとつのルームには、パテック フィリップ完全自社開発・製造による多数のムーブメントが展示され、構成部品の製造工程を紹介するエリアと、研究開発分野の専用エリアも設けられた。見学者はまた、さまざまなムーブメントの作業を実演する、パテック フィリップの有資格時計師たちと知り合う機会も与えられた。

パテック フィリップが細心の配慮を注いで保護育成してきた希少なハンドクラフト技術（七宝細密画、クロワゾネ本七宝、手彫金、細密な木象嵌、手仕上げのギヨシェ装飾、ジェム・セッティング）も展示された。40点のユニークピースとリミテッド・エディション（ドーム・テーブルクロック、懐中時計、腕時計）には、日本の文化、その豊かな芸術性、および先祖代々伝えられた技術・ノウハウがインスピレーションを与えている。見学者の目の前で職人たちによる作業の実演が行われた。またこのイベントのために日本人オーナー各位から特別に貸与された、卓越したタイムピースのいくつかも展示された。

エキシビションには、ジュネーブのパテック フィリップ・ミュージアム所蔵作品から厳選され、特別の許可を得てはるばる東京まで運ばれた約190点のタイムピースも展示され、これらを発見するまたとない機会を提供した。《オールド・コレクション》（16世紀から19世紀初頭）の中には、世界最古の時計のいくつかと、時計製作史を画する数多くの傑作が収められている。《パテック フィリップ・コレクション》は、1839年創業以来のマニュファクチュールによる技術的および美的なタイムピースの豊かな遺産を一望できる。《歴史的オーナー》と名づけられたエリアには、ヴィクトリア女王をはじめ、著名なオーナーが所有していたタイムピースが展示された。

《ウォッチアート・グランド・エキシビション（東京2023）》では、これまで同様、パテック フィリップの卓越した分野を網羅するリミテッド・エディションの発表が合わせて行われた。6点のリミテッド・エディションには、ミニット・リピーター、スプリット秒針クロノグラフ、瞬時日送り式窓表示永久カレンダーを搭載した新しい自動巻のカドラプル・コンプリケーション（5308P-010モデル）、現地時刻と同期した日付表示を備える最初のワールドタイム（5330G-010モデル）という、世界初公開の2つの技術的壮挙が含まれている。この他、東京都心部中央区の歴史的な地区を描いたクロワゾネ本七宝の文字盤センターを配したミニット・リピーター・ワールドタイムのエクスクルーシブなバージョン（5531R-014モデル）、エレガントなパーリーグレーのカラーで際立つ婦人用ムーンフェイズ・モデルの洗練されたバリエーション（7121/200G-010モデル）、およびとりわけ極東で評価の高い《ペアウォッチ》の伝統を受け継ぐ2点のピュアなデザインのカラトラバ・モデル（6127G-010モデルと7127G-010モデル）がある。

パテック フィリップはまた、《ウォッチアート・グランド・エキシビション（東京2023）》で展示されたすべてのタイムピースを紹介する記念カタログを刊行した。カタログの全販売収益は、公益社団法人日本ユネスコ協会連盟に寄付される。

パテック フィリップは、その創作タイムピース、遺産、哲学、卓越したクラフトマンシップへの献身への理解を深める一般公開、入場無料のグランド・キシジビションを通じて、入門者から専門家に至る幅広い公衆と時計製作への情熱を共有することを目指している。この趨勢が、2025年にファッションとデザインの本場ミラノで開催される、次回のグランド・キシジビションにも継続することは疑いを容れない。

主要データ

• 第6回パテック フィリップ・ウォッチアート・グランド・エキシビション（2012年のドバイ、2013年のミュンヘン、2015年のロンドン、2017年のニューヨーク、2019年のシンガポールに続く）。
• 約60,000人の見学者。
• 2023年6月10日（土）から25日（日）まで東京・住友三角広場にて開催。
• ウォッチアート・グランド・エキシビション中で最大規模のものとなる、2,500 m2を超える展示会場。
• 400点以上の時計と100点以上のオブジェを展示。
• 日本市場に向けた6点のリミテッド・エディション。

テーマ・エリアとルーム

• ジュネーブの《イギリス公園》（レマン湖風景とジュネーブ花時計）
• シアター・キオスク
• 歴史的建物、現行コレクション・ルーム（148点）
• 歴史的建物、ナポレオン・ルーム（4点）
• パテック フィリップ・ミュージアム・ルーム（166点）
オールド・コレクション（82点）、パテック フィリップ・コレクション（84点）
• 歴史的オーナー・ルーム（14点）
• 日本人コレクター貸与タイムピース・ルーム（10点）
• 希少なハンドクラフト・ルーム（40点）
• クラフトマン・ルーム：木象嵌、ギヨシェ装飾、クロワゾネ七宝、七宝細密画
• マニュファクチュール・ルーム：
・製造工程エリア
・ムーブメント・エリア：回転表示キャビネット（ムーブメント36個）、インタラクティブ・ショーケース
（ムーブメント64個）
• 研究開発・アドバンストリサーチ・エリア（8点）
• スーパーコンプリケーション・ルーム（3点）、グランドマスター・チャイム没入体験
• マスター・オブ・サウンド・ルーム（17点）
• ウォッチメーカー・ルーム
• ブックストア、ミニマッピング：《A.N.ド・パテックとJ.A.フィリップの出逢い》

パテック フィリップ ホームページ：https://www.patek.com
エキシビション ホームページ：https://www.patek.com/watchart2023